

地域レポート

「こども食堂」について

小児科医
喜納 初子

【開始まで】

2015年12月と2016年2月に、新聞紙上に今の子供達が置かれている貧困の厳しさと地域での先進的取り組みが連載されました。貧困の進行は耳にしており、話題にもなり知っているつもりでいましたが、現実には深刻なのだと知らされました。

医療生協子供サポートチーム古波蔵班のメンバーがこの記事に触発され、「私達も何かをやりたいね」と数人で話し合いが始まり、役所への申請や場所探しをはじめました。インターネットで那覇市古波蔵にある「むつみ会館」（自治会館）を見つけて訪問、自治会の方々の協力も得られ、2016年7月、こども食堂「むつみふれあい広場」の開設にこぎつきました。

場所：古波蔵むつみ会館 日時：毎月第2土曜日10時開館。食事時間12時～14時

献立：栄養士作成のメニューで主菜、副菜2品、デザート（プロ並ケーキと時に果物や菓子類）
主菜はカレー・シチュー・荷物・具沢山の汁物が主となりクリスマス会などのイベント時はハンバーグやチキンの空揚げ等

料金：子供無料・大人200円

目標：食事の提供にとどまらず、食前から食後の最小限のマナーを身につけることもあります（いただきますの挨拶をしてから食べ始める・できるだけ好き嫌いをなくす・食べられる量を取り残さない努力をする・食後の食器は所定の場所まで運ぶ等）。さらに、希望する子供には調理と後片付けの手伝いで自立を学ぶこと

【こども食堂スタート】

こども食堂を開始したものの、当初は利用者よりボランティア参加者の方が多い状況でした。学校や公民館、児童館等へ案内チラシを配布しても、来るのは10名前後。子供だけでなく高齢者との交流の場になるのも良いのではと高齢者施設にも案内チラシを配布。更に児童館の協力も得ることができ、子供たちの利用が徐々に増えていきました。なお、児童館は施設利用のみで食事の提供は無いとのことでした。

ここに来る子供たちと接している中で、学校給食の無い土曜の昼食時に子供達は一旦帰宅しますが、昼食を摂らずに戻ってくる子や、菓子パンやインスタント食品で済ませているこどもがおり、学校が休みの日に昼食を欠く子は想像以上に多いことを実感しました。

この場で学習に取り組みたい子供さんもいて、「無料塾」が今後の課題に上がってきました。

【むつみふれあい広場】

このこども食堂の特徴は医療生協関係者が多く、ボランティア自身が同窓会でもしているかのようには賑やかに楽しんでいる事でしょうか。

農業に従事する医療生協退職者や、組合員さんからの野菜等の提供があります。さらに関係者周辺の方から毎回40個余のプロ並の手作りケーキの提供等、あり得ないような協力です。

他の方からも時々庭で採れる果物を頂いたり、別の方からドーナツやサーターアンダギー等。時には食べきれない程の料理が食卓に並びます。食卓も食堂も賑やかですが、この賑やかさが本当に困ってい

る方を利用し辛くしているならそこは問題です…。

また、ケーキや豪華なお料理につられてか、貧困の域から隔たりのありそうな常連さんの集団もあります。子供より中高年が目立つのも気になります。なぜなら目的が「こどもの貧困」への僅な対策ですから。でも子供も増えてきましたし、問題を抱えた子供も来てくれるようになりました。続けることで問題点が少しでも解消されるよう願っています。

【成果】

泣きわめいて「いただきます」を待てなかった子が「いただきます」を待てるようになったこと、母の日に自分で料理した子がいたこと、人前で話すことが難しかった子が「いただきます」の挨拶をリードしたことがきっかけで徐々に積極的になったこと、食前から食後まで暴れまわった子が座って食事できるようになったこと等、子供達に変化が見られ、

この活動の成果だと考えられています。

【ひろがり】

直近の2回、那覇市の儀保地域の自治会の方が参加・見学にいらっしゃいました。新たな立ち上げを計画中のようです。いろいろな場所へ拡散するのは敷居が低くなりとても良いことだと思います。

根本的に貧困の格差が縮小し、「こども食堂」が不要になるか別の用途に変わる日がくることを望みながら、とりあえず差し伸べられる手が増え現状打開へ近づけるよう今後も「こども食堂」に関わっていきたいと思います。更に学習できる場所の希望が出てきました。こども食堂として直接関与は困難ですが、無料塾の取り組みをしている方と連絡を取り合いたいと思っています。

今後の新たな展開とさらなるひろがりに胸躍らせています。